

旅

利根川と鹿島灘に挟まれた茨城県神栖(かみす)市は水と風の町だ。海沿いの旧波崎町一帯は、ヒュンと心地よい風が吹き、漁港の波崎新港には大きな風力発電の風車がそびえ立つ。この強い風に注目して「プロカー」という新しいスポーツの愛好家が全国から集結している。

港の風車の周囲の広い敷地に赤、青、黄、黒、色とりどりの三角の帆がずらりと並び、ニュージールランドで生まれたプロカーは、いわば陸のヨット。風の力だけで三輪の車体を走らせ、コースを競う。日本には五年前に上陸したばかりの新スポーツだ。

「風だ風だ。動き出すよ」。子供たちが興奮した声を上げる。高さ四メートルほどの大きな帆につながったひもを左手で引くと、角度が変わって微妙な風を捕まえる。動き出せば車体の走る方向はハンドルで操作する。プロカーはきわめて単純な構造でできている。足を前に伸ばし、寝ころがるように乗り込めば、初心者でもほとんど車を走らせることができるのだ。

「風がこんなに楽しめるなんて。見てすぐにカーを注文したよ。以来、『今日もきたぞ』と仲間とやっできて技術を磨いているところ」と話すのは市内に住む須田信行さん(65)。地元のアニアの農業仲間と参

加した試乗会で二目見て気に入ったという。広場にいくつか設けた赤

海風受け快走 陸のヨット

茨城県神栖市



港の近くで風を受け走るプロカー

い目印の柱を順番に回ってゴールを目指す。風を受ける角度が変わると急速にスピードが落ちる。エンジンの騒音もなく、簡単に動くのに、風を読む技術のある人は確実に抜いていく。奥が深い。

波崎はいくつもある芝のサッカー場で少年らが走り回り、鉄人レース・トライアスロンの大会も開かれるスポーツの町だ。プロカーの特徴は体力勝負ではないため、子供からシニアまで、初心者から実力者まで幅広く楽しめること。平均して秒速六七メートルの風が吹く海沿いの町は、この新

スポーツにとって絶好の場所といえる。



太平洋の強い風を受けて風車が回る

手の一人だ。「エコロジーを学んだり、ごみ拾いの活動につなげた。スポーツだけでない広がりができてきた」と実感している。

波崎の町にはこれだ。プロカーの町として広げていきたい」と神栖市波崎商工会の青年部が主体となり、特定非営利活動法人(NPO法人)シーウィンズを設立。毎月第三日曜日は練習会などを開き、子供たちの総合学習の授業や体験教室、試乗レースなどを通じて普及のための活動を進めている。

「九時、秒速四メートル、気温三十三度」。NPOのプログでは地元の風力予想などを書き込み、レース仲間の集結に役買る。理事を務める村田文昭さん(42)は、ニュージールランドや欧州で開かれる国際大会にも遠征するトップ選手

欧州大会で優勝した船沢泰隆さん(34)はヨットのプロセラー。「セイリングを始める準備、理解を深めるためにも、陸上で安全なプロカーは役にたつ」と広がりを感じている。「プロカーの国際大会に行く、オー、ハサキビールと、この町が日本の聖地として、知られているんですよ」と話すのは日本プロカー協会会長のパンノット直子さん。ニュージールランド生まれの夫、ジミーさんと沖繩から青森まで全国への普及に奔走しながら、波崎で国際大会を開こうと計画を練る。

地元根付く新スポーツ

雲が素早く流れ、船の向こうにも何基かの発電用風車が回っている。春には鹿島灘のハマグリ、これからはカツオが揚がる。普段はのどかな漁港だ。十一日には初心者からトップクラスの選手までが集う競技会、ハイウィンズカップが開かれる。この日も色とりどりの帆で、波崎新港の広場は埋め尽くされるはずだ。(地方部 田中映光)



利根川の散策も

茨城県の東南端、神栖市波崎へは、東京方面からならJR銚子駅からタクシーなどで銚子大橋を渡る。大橋から利根川沿いに、散策路の河畔プロムナードがのびる。海岸には十五メートルほどの砂丘が広がり、波崎海岸砂丘植物公園では海の植物を観察することができ、機器の貸し出し、講習に随時応じている。観光は神栖観光協会(☎0299・92・1281)まで。